

会議録

会議の名称	西東京市立田無第四中学校及び西東京市立柳沢中学校の生徒数の変動への対応に関する地域協議会（第2回会議）
開催日時	平成30年10月1日（月） 午前10時00分から午前11時40分まで
開催場所	イングビル市民会議室
出席者	<p><委員>瀬沼 洋子、野口 由佳、本名 修也、島崎 里子、神山 繁樹、竹平 真由美、清水 宣宏、荘 葉子、篠 徳子、山縣 弘典、村山 八枝子、今井 ゆみ、横山 常雄、小松 豊明、幸 由希、高野 公子、勝見俊也、紺野 和子、仙田 初枝、河合 奈美子、東山 信彦（順不同・敬称略）</p> <p><事務局>森谷 修（教育部参与兼教育企画課長）、大谷 健（教育企画課副主幹兼学務係長）、根岸伸太郎（教育企画課学務係主査）、室田 真衣（教育企画課学務係主事）</p>
傍聴者	2人
議題	1 開会 2 会議録の確認 3 現状を踏まえた具体的な対応案の検討 4 その他 5 閉会
会議資料の名称	資料1 地域協議会（第1回会議）会議録（案） 資料2 基本的な考え方について 資料3 田無第四中学校及び柳沢中学校の生徒数変動への対応に関する検討について 資料4 「西東京市立田無第四中学校及び西東京市立柳沢中学校の生徒数の変動への対応に関する地域協議会」スケジュール（予定）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><○発言者：発言内容></p> <p>開会</p> <p>議題2 会議録の確認</p> <p>○会長：第1回の会議録（案）について、訂正すべき箇所などがあれば発言願いたい。</p> <p>○委員：（異議なし）</p> <p>○会長：それでは正式な会議録とする。</p> <p>なお、次回より委員の皆様へ事前送付の上、期日までに御意見等がない場合、その時点で正式な会議録として決定させていただきたい。</p> <p>議題3 現状を踏まえた具体的な対応案の検討</p> <p>○事務局：資料2、資料3について事務局より説明。</p> <p>○会長：ただ今の説明について何か質問のある方は挙手を願いたい。</p> <p>■資料説明についての意見</p> <p>○委員：受入制限を行っていた場合の推移の試算だが、田無四中の方が表になっていて、柳沢中が何でなっていないのかなという単純な疑問がある。また、柳沢中の説明で4</p>	

ページ目の3番、適正規模である2学級以上とあるが、この適正規模というのはどういう基準で書かれているのか。

○事務局：表になっていないという点について、特に大きな理由はないが、こちらで数字の確認等をさせていただいた中で、今回は口頭で説明させていただいた。今後第3回第4回の報告書を作成していく中で、記述を工夫して掲載できないかと考えている。

○委員：柳沢中の試算はちゃんと出ているが、理由があってはっきり表に出さないのではないかと考える人もいると思いついた。

○事務局：続いて学校の規模についてだが、市の基本方針の中で1学年クラス替えが可能となる2学級以上が望ましいと整理している。

○委員：市の指針としてか。

○事務局：そうである。国は12学級から18学級が適正規模としているが、こちらは地域の実情によって異なるとも示されている。本市では12学級以下という学校も複数あるので、クラス替えができる2学級以上が望ましいという考え方で整理している。

○委員：伺った趣旨は、今回この協議会が立ち上がった一つの要因として柳沢中の生徒数が少ないということがあり、一方で田無四中の生徒数が多い。このバランスをとっていくという共通認識がある中で、適正規模だと書かれてしまうと、認識の違いが出てくると思う。

○事務局：適正規模の範囲内という考え方であって、生徒数が少なくなってきたという認識はある。その中で柳沢中については、多くの人が出ているという現状があるので、まずはソフト面での対応を行い、それでもだめな時には次の検討が必要となると考えている。今回はこれまで以上に魅力ある学校づくりや開かれた学校を目指して、最初のステップとして取り組んでいきたいということである。

○委員：田無四中と柳沢中の課題ということで挙がっているが、柳沢中の本来通うべき児童の流れが、保谷中にもかなり流れているわけだが、これを併せて考えていかないとだめかと思う。そちらはどのように検討を進めていくのか。

○事務局：流出というところも対応していかなければならないと考えている。資料の5ページの(3)に流出への対応というところがある。柳沢中区域からの流出についても必要に応じて制御をかけていく必要があると思っているが、今回の地域協議会以外のところにも影響が出てくることなので、まずは柳沢中の魅力作りなどの対応を行い、さらに対策が必要であれば、流出の制限をかけるといった検討も今後必要になると考えている。

○会長：それではこれから10分間程各校ごとに今回の対応に関する感想等、グループで話し合ってください、その後意見を共有したいと思う。

■各校における意見の発表

【田無小学校】

○委員：柳沢中は学年2学級が適正規模なのかということで、学校がもう少し大きい方が、部活や、いろいろなことも含めて魅力ある学校としては良いのではないかと思う。各校は今でも努力はしているのでそんなに大きな違いではないのだろうという意見があった。また、先生がもう少しの方が努力しやすいし、工夫しやすい面もあるのだろうという意見もあった。また、学区域の最終的な説明はされていたが、前回のひばり中、田無二中の時もいろいろな経緯があり相当多くの議論を重ねてきたことなので、安易にはできない難しいところであると思う。本校も四つの中学校に行くが、そういった面では、子ども達は適応力が高く、四校に行くのが悪いことではないだろうと思っている。新しい場所で新しい仲間を増やすのも子ども達にとっては大事なことであるものの、学区域の変更は容易ではないだろうということが話題となった。

【保谷第二小学校・東伏見小学校】

○委員：保二小と東伏見小とで合同で意見交換した。私の個人的な印象だが、今日の説明を聞いて、柳沢中の数が少なくなり縮小していることについての対策や考え方が置いていかれてしまっているような印象を受けた。例えば、必要に応じて学校選択制度の制限を含めた検討も必要ということになると、自分がやりたい部活動のある中学校に流れるという子ども達の思いにストップをかけることを危惧している。中学生にとって自分のやりたい部活動というのはとても大きな部分だと思う。野球部は日本の中の部活動で占める割合が多いと思うが、柳沢中で野球部は現状1人しか部員がいないというような状況というのは、やはりどうなのかと思う。また、6ページに地図が載っているが、この地図が非常に小さく見難い。柳沢中と田無四中を簡単に分けてあるが、現状として、新町1丁目は柳沢中に来ている子どもも多いと思うが、新町2丁目の子どもは小学校時代から柳沢小や向台小に行っている子どもがいる。田無四中の生徒数を抑制するために受入制限をすればしたら、小学校時代は柳沢小や向台小に通っていた子どもが中学校になったら田無四中に入れず、小学校の時に一緒に通っていた友達と同じ中学に行けずに柳沢中に行かざるを得ないという状況も出てくるのではないかと思う。また柳沢中の生徒数が減っている理由の一つとして、東伏見公園を広域避難場所にしていくために、かなりの住宅が立ち退いているということがある。今の柳沢1丁目の部分についても東伏見通りの東側だけでなく、西側についてもずいぶん立ち退きの住居が増えており、これから益々柳沢中や東伏見小へ来る児童数が減ってくるのではないかと思われる。そういう中で通学区域の見直しをしないで指定校変更のそこだけのことで解決をしようとする、田無四中の方の人数については良いが、柳沢中の方の学校の元気さや活性化というところについては、果たして本当に対応可能かどうか、少人数のメリットだけに目を向けてそれで良いのかという思いがしてしまっている。

【向台小学校】

○委員：部活動の状況、授業、行事等を含めて考えると、今、教室をグラウンドに増設するというのはほぼ不可能であるため、特別活動多目的ホールを少人数のクラスに転用するというのは、ありであると感じている。やはり小学校と違い、少人数指導はずっとその教室に生徒が生活しているというわけではなく1日の中でも短時間の利用になるので、採光面やクーラー等の空調等も含めてきちんと整理すれば転用できるのではないかというような意見になった。また、生徒の学校選択制度の受入を抑制することで17学級まで抑制することができるということであれば、教室の転用もありだと思っている。魅力的な学校づくりということで、ホームページ等を活用して地域に発信していくということも考えていけば、柳沢中の魅力というのも伝わっていくのではないかと考える。学区区域の急激な変更というのは、例えば今これから増えていくことも考えられるが、その後、減っていくということも考えられるので、今まで構築していた地域コミュニティがその度に崩れていくということも考えていかなければならないのではないかと考えた。

【柳沢小学校】

○委員：資料に、児童生徒数の増減に応じて頻繁に実施することは地域との関係からも適切とは言えず、長期的な視点に立ち検討を進める必要があると書いてあるが、やはり私達も通学区域は安易に変えるべきではないと思っている。田無四中の学校選択制の受入制限をすれば対応ができるという試算が出ているので、現地施設の対応ができるならば、児童の分散も防ぐことができ、また地域のコミュニティの影響が少ないと思うので、そのままにしてほしいと思う。

○委員：少し補足させていただきたい。やはり柳沢中と田無四中の問題は違う問題として考えていかなければならないと思う。田無四中の問題は大規模の学校でどうするかと

いう問題であり、一方で柳沢中は少なくなったのはどうしてそうなったかということ、もう一度つきつめて考えていかなければならないのではないかと思う。それは別に考えていただきたい。

【柳沢中学校】

○委員：中学校の問題を考える時に、現状は小学校の入学の時点から学区外の学校を希望する児童も出てきている中で、小学校から中学校への状況も併せて考えていく必要があると思う。特に学校選択制の変更を考える上では、小学校から考える必要があると考える。またソフト面についていくつか書かれていた中で開かれた学校づくりというところが強調されているが、そういった柳沢中の良いイメージが広がっていくには数年かかっていくような話になると思うので、これを施策としてやるということであれば、行政と一緒にやっていきたいと思いますという姿勢を作っていただきたいという話が出た。我々も柳沢中の立場としては生徒数や学級数を増やしていきたいという方向で考えるわけだが、自分達だけが良ければ良いというわけではなく、西東京市の子ども達全体のことを一緒に考えていきたいというふうに思う。先ほど、柳沢中の野球部に一人しかいないという話が出たが、そういう状況をできるだけ変えていきたい。保谷二小と東伏見小に伺いたい、部活動の話で柳沢中の子ども達のこと考えなければとおっしゃったが、それは学校選択制によって他の学校に行くことを制限するのはまずいということなのか、それとも柳沢中の野球部の子どもが増えるような方向に持っていくということなのか、それがどちらか分からなかったので伺いたい。

○委員：後半の方である。できれば柳沢中の子ども達で部活動が選択できるような状態が作りだせればベストではないかと思う。ただ、先ほど申し上げた東伏見公園を、どんどん広げていく構想がある中では、今のままでは難しいと思っている。

○委員：我々地域の人間はできることはやっていこうということで動いている。この課題を解決していくためには地域の人間でできることを行い、その上で行政としてやっていただかなければならないことはあるわけなので、そこを一緒にやっていきたいと思う。最後に提案だが、学校毎にどうしても意見が異なる。今日グループディスカッションの時間をいただいたが、これから意見をまとめていかなければならない時に学校単位での話だけではどうしても対立の溝が埋まらないと思うので、グループディスカッションをする場合は異なる意見を持った人が混ざってより深い議論をやっていただければと思う。

【田無第四中学校】

○委員：資料の田無四中のクラス数の推移について、特別教室を少人数教室に転用して学校選択制度をコントロールしていただくと、19学級が17学級位まで落ちて、なんとか現状のままできるといふところを拝見すると、じゃあできるのかなという気持ちでいる。今、柳沢小から田無四中に全員が進学しているが、そのまま来られることになると柳沢小の保護者の方々は少し安心すると思う。一方で柳沢中は育成会とのやりとりが今のところあまりないと聞いた。例えば田無四中は柳沢小母体のあしたば会、向台小母体のけやき会、田無小母体の柏会と交流があり、サポート隊ということで保護者の方々がボランティアを行っている。いろいろなところで人の交流があり、PTA同士の情報交換をすることができる。育成会というと小学生だけと思われがちだが、中学校も含んでというようなスタンスのようなので、お互いそのあたりも関わろうとしたら関わられるかということで、コミュニティの中核になるには人のやりとりがあると良いと思う。PTAの立場として情報交換から始めると、それ良いねとかそれならできそうかなとか、そのあたりをPTAでやりとりできれば良いと思う。学校選択制については、ここで吹奏楽やりたい、硬式テニスやりたいという気持ちがシャットアウトされてしまうのはそれも問題だと思うが、そこで上手く柳沢中からの流出を止められるよう市でコント

ロールするのは良いのではないかと思う。また市内には不登校のスキップ教室やニコモルームなどもある。西原や北の方はあるが南側にはあまり拠点がないので、柳沢中に関わらず空き教室があるのでしたら、そういうところを南側にも1教室あると魅力につながるのではないかと思う。昨日もPTA会長同士で話をしている、不登校の生徒数の話が出た。不登校児がいない学校はないと思うので、そういったところで魅力づくりができるのかどうかというところを検討する余地はあるのかと思う。また部活動を魅力的にというところは、文科省の働き方改革で先生方もできるだけ早く帰りましょうという流れの中で、部活動を先生方にお任せするのは果たしてこれから増やすことはできるのだろうかと思う。他市がやっているように、他の方を雇って部活動専門として入れていただく等については、市がどういうふうを考えているのかということもあると思うが、先生に無理させないのであれば予算を回して魅力のある部活動をそれぞれやりたいわけであり、そのあたりも柳沢中だけでできない解決方法だと思うので、そのあたりをひっくるめて御検討いただければと思う。

■全体での意見交換

○会長：各校いろいろなお話を踏まえてお話をしていただいた。これで式次第としては次回の方の話に入ってくるわけだが、各校からの今回の説明に対する御意見等を発表していただいたところでこれらの内容を踏まえて次回の会議で一定の方向性について整理していく。そのような流れで進めていくということによろしいか。

○委員：次回はどのような流れになりそうか。

○事務局：次回は本日いただいた御意見を整理させていただき、案を作成したいと考えている。次回それを再度皆さんに御確認いただき、4回目では報告書の整理をしていきたい。

○委員：せっかく協議会という形で各校から集まっているので、そこできちんと議論をして協議会としての結論を出していかなければならないと思うが、議論というところが今のところあまりなされていないと思っている。今日これで終わってしまうのはどうなのか。

○事務局：今回一つの報告書に向けて協議会で検討しているが、ある程度形にした段階で皆さんに再度御意見をいただくという場を次の協議会で設けていければと思っている。そこで先ほど御提案いただいたグループディスカッションを取り入れるとかということも含めて検討していきたいと思う。

○委員：おっしゃることは分かった。ただ今回もある程度方向性が出てきている中で、もう少し意見を言いたい人もいないのではないかと思う。少し意見を言わせていただきたいが、柳沢中に関して魅力ある学校づくりということで小規模校のメリットを活かすことや開かれた学校づくりということが掲げられているが、少し穿った言い方をすると生徒が少なくなってしまうので、あんたたち頑張りなさいよという言い方をされているような気がしてしまう。特に開かれた学校づくりというのは、児童が少ない柳沢中だからやらなければならないわけではなく、全ての学校でやらなければならないことであると思っている。それが今回対策の一つで出てきてしまっているというのは不本意である。小規模校のメリットというのがあるが、ではそのデメリットは何なのか。田無四中も生徒数が多く教室数が少ないということがあがあるが、田無四中のメリット・デメリットは何なのかということももう少し具体的に書かれていればと思う。学校選択制度の受入制限をすることについて、今日の皆さんの御意見では反対する人はあまりいないと思ったが、その上で学区の変更を行うのかについては、私は変更を考えていただきたいと思っている。地域コミュニティが崩れてしまうという考えもあるが、逆に田無小学校から話があったように一つの小学校から複数の中学校に行っているという話ももちろんあるので、そこを優先課題として捉えるのはどうか。今回協議会が立ち上がった経

緯、きっかけは生徒数のアンバランスがあるということがあると思うので、そこを解消することをまず優先して考えていただきたい。

○委員：今の意見の一つ。先ほど田無小から四つの学校にという話があった。田無小の場合、四つの学校に行くことに対してのコミュニティや子どもの動き、親の動きについては、旧田無の学区の中心のところにあるため、親達はその地域がどういう地域なのか良く分かるわけである。しかし、柳沢小は柳沢中に行くとなると生活圏が違う。そこを一緒にしようとするのであれば中学からではなく、小学校、その前の時代からやった上で学区を変えていくという考え方をしていけないと無理である。親達の難はそこが大きい。それをよく考えていただきたい。

○委員：今の生活圏というところについて、生活圏の違いというのは皆さんそんなに感じることなのか、教えていただきたい。

○委員：柳沢小の保護者は、子ども達の行動が見えなくなってしまうことが一番不安である。今は田無駅や武蔵境に向かって行動することしか考えていない。東側に行くという考え方は今までゼロに近かった。そこが入ってくるということは小学校やもっと小さい時代から一緒になって考えていけないと、保護者としてはとても不安である。

○委員：今回は柳沢小を安易に柳沢中にするということではなく、市もそのようにお考えだと思うが、できる限りのことをやった上で話である。柳沢中としては本当に生徒数が増えて欲しい、部活が増えて欲しい。部活の環境も、人数の多いサッカー部でも小さい照明が広い校庭に3つしかなく、照明がついていてもボールが見えなくなってしまうという環境にあり、環境も整備されていない。ここを変えていき、皆さんに選んでいただける学校にしたいという思いがとても強いので、地域のコミュニティが固まっていて不安に思われているところで学区の変更ということは考えていない。まず東伏見小が柳沢中に来ていたのに保谷中に流れているところについて、小学校の段階から学校選択制度を考えていけばなんとかなるのではないかという御説明を本日いただいているので、そこをまず突き詰め、柳沢小を柳沢中にするのは切ったほうが良いと思う。

○事務局：先ほど通学区の変更を検討しても良いのではないかというお話があったと思うが、事務局としては通学区の変更を否定しているわけではない。田無四中の施設に子ども達が入りきらなくなってしまうということがまず一つ大きな課題となっているが、それが今回の転用改修で対応できるということが分かった。西東京市自体が合併市ということもあり、学校の規模や配置、エリア分けのバランスがとれているというわけではなく、課題があるということは認識している。ひばりが丘中学校が今後移転することで、中学校は一定のバランスは図られたものと考えているが、今回は田無四中の施設規模について緊急的に方向性を考えなければいけないという課題があった。方策として通学区の見直しを絶対に行わないということではなく、全市的な視点から将来的にどうしていくかは今回の協議会とは別に検討していかなければならないと思っている。あくまで今回は2校に対しての検討であり、この段階で一部の通学区の見直しを考えるのか、または今回は施設で対応し、将来的に全市的な検討を行う中で通学区を含めた検討を行うかという選択になると考えている。その点を含めて、いただいた御意見を整理させていただき、進めていければと思っている。

○会長：本日の様々な議論を踏まえて市から発言があった。次回の会議で本日出たことを整理していただき、それを踏まえて次回の会議では一定の整理されたものについて再度御意見をいただくという方向でよろしいか。

○副会長：2つ程話をさせていただきたい。このままの状況で小学校から迎えるにあたり不安な状態を抱かれると困ると思うので、お話させていただきたい。一つは、私は保谷中とひばり中を経験して柳沢中に着任したわけだが、改めて少人数の学校の良さを感じている。保谷中の時は、少人数でやろうと思ってもできない。しかし、柳沢中は少人

数を15人、16人の学級でやっている。一人ひとりの学習状況の把握や課題の与え方、学習のフィードバックもできる。また、先ほど、不登校の話があったが、生活指導の会議で500人規模の子ども達のいろいろな状況を週1時間の中で捌かなければならない。そうなるとうやはり、顕著な子から捌いていくので漏れが出てくる。柳沢中の規模は、その1時間の中できっちりと話し合いができるので、どういう関係諸機関に繋げれば良いのか、またどのようなアプローチをすれば良いかというのを、担任だけでなく複数で管理職含めてフォローアップができる。そのような点に改めて良さを感じている。先ほど議論に出ている、少人数で悪いのか良いのかについては、私は少人数も良いと思う。学力も全国の平均以上であり、発表やイベント等、子ども達が対外的に活躍する場面でのレベルも低くない。ではなぜ少なくなってきたここで議論されているのかについては、柳沢中は全学年3クラスが一番適正だと思っている。決して多いから良いというものではない。部活動は全国的に野球部は減り合同部活動となっている。保谷中、ひばり中、柳沢中で部活動の数がどれくらい違うかというと、外部活で一つ位しか変わらない。大きく数は変わらず、文化部も数がある。吹奏楽部については中規模以上の学校でないと集まらないため、これは致し方ない。本市では柳沢中と明保中は生徒数が少なく厳しいが、柳沢中だけではない。野球部は、私は一人であろうがつぶさないと言った。今、合同部活で行っているが、この合同部活も数はつぶさないでいこうと思っている。ただこれも面白いもので、柳沢中では1年生の時からレギュラーになり、自ら自分でチームの責任を背負って出なければならず、そういう場面が早いうちから体現できる。保護者としては自分の子が補欠で応援に行くより、試合に出ているところに応援に行くほうがはるかに楽しく、また自分の子が頑張っている姿を見ることができる。これも小規模校のメリットなのかと思う。私はあまり大規模校、小規模校と捉えるのではなく、与えられた環境の中でいかに子どもが活躍できる環境にできるかというのが学校の責務なのかと思っている。したがって全学年3学級位を目処に、内部努力もしたいが、行政の方や皆さんのお力をお借りできる方策があれば、ぜひ御一報いただきたいと思う。もう一つ次回に向けて、最初の挨拶でしたように、私は本市が長く、ひばり中と田無二中の学区域の検討もさせていただいた。それまで長きにわたってひばり中に通っていた住吉小の子ども達が、今度は田無二中に行くという決断を下したが、これは協議会の中の総意で決めさせていただいた。それぞれの学校の思いもとても大事だと思うが、私は西東京市の子ども達が平等に教育を受けられるような状況はどういうことなのだろうという視点を大事にさせていただくのが、とても大事であると思う。ここで決めたことが50年、100年後レガシーとして残るという意識を持って御意見を集約していくことがとてもやりがいもあり、そういう視点で皆さんの御意見をまとめてやっていきたいと思う。小学生にはぜひ不安はないと言っていたきたい。

議第4 その他

○事務局：今後の予定について。

閉会